

研 究 分 野	増養殖技術	部名	磯根資源部
研 究 課 題 名	有用海草人工採苗及び配布記録		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H13～		
担 当	山田 嘉暢		
協 力 ・ 分 担 関 係	西北地方農林水産事務所鰯ヶ沢水産事務所、深浦町役場		

〈目的〉

当所で開発した各種海藻類の人工採苗や養殖技術を県内の市町村、漁協や栽培漁業施設に移転を進めるため、必要な指導やバックアップ用種苗を生産する。

〈試験研究方法〉

1. スジメ

平成 19 年 6 月 11 日に階上町道仏地先で子囊斑を形成したスジメ成熟藻体を採取し（社）栽培漁業振興協会の飼育水槽に収容した。6 月 12 日に藻体を取り揚げ、ろ過海水で洗浄した後、冷暗所に 2 日保存した。6 月 14 日に当所に運搬し、15℃下で放出させた遊走子を 50m のクレモナ糸を巻いた採苗器 12 枠（計 600m）に付着させた後、18℃、40-60 $\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ 、中日（12 時間明期：12 時間暗期）条件下で 2 週間、PESI 培地の全量を毎週交換しながら配偶体を培養した。その後、スジメ種苗を夏眠させるため 20℃、暗黒下に種糸を移して保管した。9 月下旬以降 15℃、40-60 $\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ 、短日（10 時間明期：14 時間暗期）条件下に移して幼胞子体の形成を促進させながら、種苗配布時期まで PESI 培地を週ごとに全量交換しながら培養した。

2. エゴノリ

平成 19 年 6 月に外ヶ浜町三厩六条間地先でエゴノリを採取して、当所に運搬し 20℃、中日（12 時間明期：12 時間暗期）条件下で PESI 液を添加し、週ごとに培養液の全量を交換しながら培養した。

7 月 2 日から四分胞子の自然落下が確認されたため、パスツールピペットを用いてマイクロプレートに移してさらに同様の条件下で雌雄が判別できるまで培養を続けた。雌雄が判別できしだい、雄性配偶体は 20ml のバイアル瓶に、雌性配偶体は 20ml または 500ml の丸底フラスコに移して 12 月まで培養した。12 月中旬には雌雄配偶体を混合培養し、嚢果が形成されるまで培養した。

3. ガゴメ

平成 19 年 12 月 4 日に大間町大間地先から採取されたガゴメ 2 年目から遊走子を放出させ、50m のクレモナ糸を巻いた採苗器 6 枠、計 300m に付着させた後、7℃、40-60 $\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ 、短日（9 時間明期：15 時間暗期）条件下で PESI 培地を用いて週ごとに培地の全量を交換しながら培養した。

〈結果の概要・要約〉

1. スジメ

平成 19 年 10 月 27 日には、スジメ種苗が全長 1 cm に生長したため採苗を終え、生長調査用に八戸沿岸に沖出しした。

2. エゴノリ

平成 20 年 1 月 23 日に深浦町北金ヶ沢地先の多機能静穏域内にある投石漁場西側にあるホンダワラ群落中に、20ml のガラス瓶に果胞子嚢を形成したエゴノリ果胞子 10 瓶分を 1 瓶ずつとりだし、ネットロネット中に収容して、カルポスポアーバックとして設置した。

また、20ml のガラス瓶で培養したエゴノリ果胞子 25 瓶を、平成 19 年 1 月に 2 回にわたって三厩漁協に提供した。また同漁協は三厩六条間地先からカルポスポアーバッグに入れてホンダワラ漁場へ投入した。

3. ガゴメ

ガゴメ種苗 300m を平成 19 年 2 月に風間浦村あわび増殖センターに運搬し、同所から蛇浦漁協、易国間漁協、尻屋漁協沿岸に沖出した。

〈今後の問題点〉

〈次年度の具体的計画〉

ガゴメについては、今後、種苗の生長特性を調べる。

〈結果の発表・活用状況等〉

深浦町海洋牧場管理運営協議会

水産物供給基盤整備事業年度末報告会